

2014年1月中部品質工学研究会 議事録

- ◆ 日時:2014年1月11日(土) 10:00~16:00
- ◆ 場所:中部品質管理協会 会議室
- ◆ 参加者(敬称略):林(千)、井上、伊藤、牧野、池田、山口、川畑、杉浦、大見(議事)
- ◆ 内容

1. 輪講 書籍「よく分かるMTシステム」:第4章 MTA法 大見

以下の議論があった。

MTA法はMT法の欠点である多重共線性を余因子行列で回避する(1項目しかできない)システムだが、単位空間のMDAが1にならず不定であることが、この方法を使いにくくしている。ただMTシステムのこれまでの経緯、発展を見てみると余因子行列や新MTA法の信号の $\sigma=0$ に対しての項目の扱い方や、目的とする特性値の推定の仕方などは、後のT法やRT法につながっている。

2. 事例研究:「MT法を用いた製造工程不具合解析」:林

製品の一部をOK/NG判定するという官能検査のため、特性値を1ロット当たりのNG数とにおいて解析した結果を報告

- ・NG数2個の信号データでMD値の外れたものあり
- ・OKを単位空間、NGを信号データとして比較解析するも、MD値が分離できず

3. L12近直交表についての話題:井上

池田氏が作成したパラメータ設計解析ソフトの計算(L12近直交表計算)に問題がないかの確認。内容は『正方行列を使った要因効果の計算に対する条件の作り方と、作り方による結果の確認』を行い、問題が無いことを確認した。

4. T法項目選択について:牧野

T法の項目における直交表の検出のバラツキを紹介した。要因効果図で削除する基準を、0db以下と、-0.1db以下で比較を行った結果を報告。-0.1db以下が、今回のデータからは、高い推定精度が得られた。

5. 事例研究:「MT法を用いた消臭剤の樹脂加工不良原因」:杉浦

特徴量の数が不足しているので、適正な特徴量を追加して再解析する。

その他詳細内容は割愛する。

6. 事例研究:「近直交表L12を用いた抗菌スポンジの抗菌評価条件検討」:杉浦

目的を明確にすることで様々な解析方法があることの例の教示があった。

その他詳細内容は割愛する。

次回は2月1日(土) ITEQ本社事務所

以上